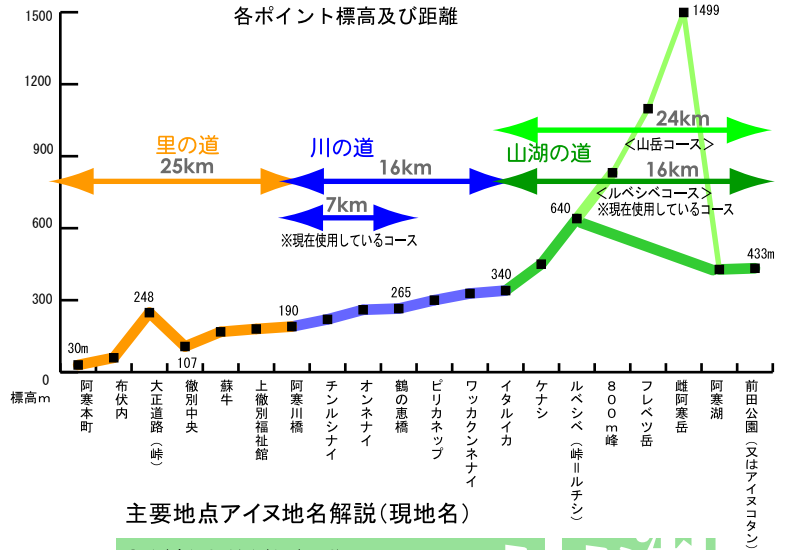


阿寒クラシックトレイル全行程図



各ポイント標高及び距離



主要地点アイヌ地名解説(現地名)

- **イペウシナイ(イペシベツ川)**
パンクテーから阿寒湖に流入の川である。松浦安加武留宇智之誌は「イペウシベツ」と云は、喰物多く(有と)云儀也。
- **チェルイモシリ(チウルイ島)**
永田地名解は「チウ・ルイ・モシリ急流島」と書いたが、(波が・はげしい・島)の意味である。風がふくとこの辺は波が荒い。チウルイ島の対岸は有名なマリモが生息しているが、このマリモも藻が波によって、もまれて形成されたともいわれている。
- **ボッケイ(ボッケ)**
松浦安加武留宇智之誌はヌーとして「ヌーは温泉の事。和語ユウの転じたるなり。」と書いた。シ・アウン・ヌ「大きく・入りこんでいる(所の)・温泉」の意で、そのとおり湾の最も内側に温泉が湧出しているのがであった。
- **オンネサルンベツ**
阿寒湖畔市街のほぼ中央を、南側から湖に流入しているのがサルンベツ、今はこの川の支流になっているのがオンネサルンベツである。もとはサルンベツと並流して直接湖に入っていた。松浦はサルンベツの頭にポン(子:小さい)がついているが、いつの間にか省略されてしまった。
- **イタルイカ**
地名解:地名。イタは板、ルイカは橋の意。かつて、大塚某がここに板を渡して橋を架けたことから(当時はすでに不明)名づけられたという。大塚惣太郎が網走山道を開削した際に橋を架けたのであろうか。川はイタルイカオマナイ川とおもわれる。国道の下を暗渠となって横断している。
- **ピリカヌツチ(ピリカネツ)**
地名解:川の名。水が良いところから名づけられたという。武四郎が訪れたときは、これがつまってピリカベツと呼んでいた。
- **ワツカクン子ナイ**
地名解:川の名。ワツカは水、クン子は黒い形の意。流れる川の水が黒いところから名づけられたという。この上流には褐鉄鋼の鉱床があるところから、黒ずんでいたのだろうか。
現在地:川は白水川と思われる。国道に阿寒橋(1961年8月竣工)が架かり、鮎別白水林道入口に前田一步園の標柱がある。上流の雌阿寒岳山麓で、明治中期より硫黄の採掘が行われ、白水川沿いに硫黄を駄送した。
- **シユマタツコブ**
地名解:地名。シユマは岩、タツコブは小山。阿寒川のふちに大きな岩が小山のように重なり合っているところから名づけられたという。
- **ルベシベナイ**
地名解:川の名。ルベシベツの対岸。
現在地:阿寒町ルベシベ。川はルベシベ川と思われる。ここから2日ほどでセチリの川すじ(現在の幌呂川かと思われる)へ出ることができると記している。現在、この川沿いに町道(市道)ルベシベ鶴居越道路があり、鶴居村幌呂方面にぬける。1910(明43)～1929(昭和4)年まで駅通が設置された。
- **アキベツ(鮎別)**
地名解:川の名。アはすぐに出る、キは直に干するという意。水が多く出たり、なくなったりするの意。一里杭があるという。
現在地:阿寒町鮎別。川は鮎別川と思われる。
- **テシベツ(徹別)**
地名解:川の名。永田は「テシベツ・梁(やな)川」としている。地名として残っているテシの多くは、岩盤が川を横切って梁のような形をしているところである。一里杭があったという。現在地:阿寒町大和にあたり、川は徹別川と思われる。
- **フウシナイ(布伏内)**
地名解:川の名。「横多き沢」の意。ここからシユマセヘ行くまでに、一里杭の跡があるという。現在地:阿寒町下布伏内。大正地区にぬける町道大正道路がある。
- **ホルンナイ**
地名解:川の名。「洞ある川」の意。アイヌに穴に住んでいた先住者の伝説あり。
- **シタカラフト**
地名解:地名。シタカラは「山の麓にある」の意。永田は「犬の子を産みたる」と、更科は「うだいかんばの皮をとる」としている。現在地:舌辛川を挟んで阿寒町富士見町と新町。舌辛川が阿寒川と合流する地点。

【参考文献】
『阿寒川水系総合調査報告書1993』(釧路市教育委員会・(財)前田一步園財団・阿寒町教育委員会 編)『阿寒川水系の歴史』(戸田恭司、澤四郎)より抜粋
『道東地方のアイヌ語地名～国・府・市・町・村の周辺』鎌田正信著より引用。
※「永田地名解」:永田方正の『北海道蝦夷語地名解』文中「地名解」も同様。
※「松浦安加武留宇智之誌」:松浦武四郎の『安加武留宇智之誌』
※「一里杭」:文化年間に幕府により開削された「網走山道」の標を指していると思われる。
※「更科」:更科源蔵